

令和4年度 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 令和5年2月24日（金）午後2時30分から午後3時30分

■ 場 所 宇都宮市役所 14大会議室

■ 出席者

1 委 員（13名）

遠藤信一委員，矢古宇芳一委員，大森玲子委員，菊池克利委員，北條雅人委員，
石戸奈緒美委員，鈴木桂子委員，福田治久委員，塩澤美枝子委員，高橋友久委員，
小関裕之委員，荒川昭子委員，坂本理江子委員（委員名簿順）

※ 欠席委員（7名）：遠藤秀樹委員，手塚浩子委員，石川晴美委員，増淵祥子委員，
中野智之委員，野澤裕治委員，小曾戸和子委員

2 事務局（11名）

【保健福祉部】 部長，次長（保健衛生担当），保健所長

【健康増進課】 課長，課長補佐，企画グループ係長，健康づくりグループ係長，職員4名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者・記者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，委員了承
- ・ 所定の手続による事前の周知の結果，傍聴希望者及び記者はなし

2 委員紹介【省略】

3 会長・副会長選出

- ・ 委員改選に伴い，新たに会長及び副会長を選出
- ・ 宇都宮市食育推進会議規則に基づく委員の互選により，会長に大森玲子委員，副会長に矢古宇芳一委員を選出
- ・ 会長及び副会長よりあいさつ

4 あいさつ【省略】

5 議事

(1) 第4次宇都宮市食育推進計画における重点事業の取組状況等について

6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

(1) 協議事項

「第4次宇都宮市食育推進計画」における重点事業の取組状況等について

● 委員

資料「別紙」1 ページに記載の、「自然に健康になれる食の情報発信事業」について、「野菜摂取促進に向けた動画を市内バス停等のモニター等で放映」とあるが、なぜ周知場所が「バス停」なのか？

○ 事務局

情報発信事業の狙いとして、市民の健康関心度に関わらず、日常生活の中で望ましい食生活の情報が享受できるよう、不特定多数の市民の目に触れる方法として、市が設置しているデジタルサイネージを活用した周知に取り組んだところであり、その設置場所がバス停である。

● 委員

資料「別紙」6 ページに記載の、「新たな日常」に対応した食に関する正しい知識の普及啓発について、令和5年度の取組予定に、「ICTを活用した講座の実施」とあるが、具体的にはどのような内容か？

○ 事務局

コロナ禍において、これまで対面で実施してきた講座等を、オンライン形式や動画配信としたところ、視聴する時間を選ばずに見られる、繰り返しみられる、などの理由から、好評であったため、引き続き、講座の内容に応じて、積極的にオンライン形式等も継続したいとの考えである。

● 委員

動画配信などであっても、まずは、そのような情報が配信されていることについて広く周知を図り、市民に認知してもらうことが大切であり、市の広報誌などはもとより、多くの人に情報が届くよう、効果的に周知してほしい。

また、YouTube の配信については、給食施設従事者など特定の方しか視聴できないのか、広く一般の市民も視聴できるのか。

○ 事務局

健康に関する動画の専用サイトについては、あらゆる機会を捉えながら周知していく。

また、給食施設従事者向けの動画については、一般の方も視聴できる環境にあり、さらに必ず視聴して欲しい対象者には、個別に通知し視聴を促した。

● 委員

資料「別紙」7 ページに記載の、「伝統料理講座の実施」と「小中学校における食文化の学習の推進」の目標値が、令和3年度の基準値と令和8年度の目標値が同じ値で、目標としての積極性を感じないが、どのような考えか。

○ 事務局

「小中学校における食文化の学習の推進」における目標値「94校」については、市内の公立小中学校、全校を示す数字であり、「全校で食文化の学習を推進すること」に、現在も取り組んでおり、それを維持する目標としている。

「伝統料理講座の実施 4回」については、市内における伝統料理の種類や、それを継承できる人材にも限りがある中で、実施が可能な回数を維持する目標である。

● 委員

市内の伝統料理とは、資料に記載されているものだけか。もっと他にもあるのではないか。

○ 事務局

各地域において継承されている伝統料理が他にもあると考えられるので、地域において継承に取り組む団体等の活動内容などにも着目しながら、積極的に拡大していく。

● 委員

重点取組を見渡すと、子どもを対象とした取組が充実している印象を受け、それは良いことであるが、子どもに食事を提供する保護者、大人向けの事業が足りない印象を受ける。

コロナ禍で経済的な問題を抱える家庭が増えているという報道を見聞きし、給食が一日の食事の中で、唯一、栄養バランスの取れた食事を取る機会になっているお子さんもいるという。子どもの食を支える仕組みとして、宇都宮市においても子ども食堂の普及や開設支援にも力を入れて欲しい。

また、コロナ禍で定着した「黙食」について、学校で給食の時間に黙食を徹底するあまり、小学生の孫には、家庭の食事の場においても、「食事中は話してはいけない」という誤った習慣が身についてしまった。給食の時間には、食事の意義とか共食の楽しさを教えてほしい。

○ 事務局

子ども食堂の開設支援については、資料「別紙」4ページ中段に記載の「子どもの居場所づくり支援」において実施しており、現在26か所開設されている居場所のうち、8か所において食事の提供があると伺っている。今後とも、身近な地域において、貧困世帯に限らず、子どもが安心して過ごせる居場所や食堂の開設が進むよう、市として補助制度を活用しながら拡大を図っていきたい。

学校における食事マナーの指導については、資料「別紙」2ページに記載の「児童・生徒に対する食に関する指導」がそれに該当する事業と考えており、食事マナーを教える中で、「楽しく食べることの大切さ」なども指導していく。

○ 事務局

マスクの着用について、文部科学省から、学校教育の場においては、特に式典などの場面における緩和が示されたところであり、コロナの感染症法上の位置づけが5類に変更されることに伴い、日常生活においてもマスクを外す場面が増えてくることが予想される。

市においても、市民の皆様が、場面や人に応じて適切にマスクを着脱できるよう、関係機関と連携しながら、適切な情報を発信していきたい。

● 委員

子ども食堂の開設について、まずは設置数を増やしていくことが優先と考えるが、栄養バランスの取れた食事を提供できるよう、市としてどのように取り組んでいく考えか。

○ 事務局

子ども食堂において、食事を提供するだけでなく、みんなで楽しむイベントのような時間があると伺っており、子どもとスタッフが栄養について学べるよう、本市の栄養士が行う食育出前講座などを活用してもらうなど連携を図っていく。また、子ども食堂の調理担当者等に対し、旬の野菜を使ったレシピの提供などにも取り組んでいきたい。

7 その他

おうちごはん健康提供事業<令和4年度の取組>について説明